

15 太郎杉歩道

太郎杉は天城一のスギで、幹回り973cm、高さ53m、樹齢450年の巨木である。静岡県の大杉(沼津市西浦市民の森)に次ぐ巨木で県の天然記念物に指定されている。森の巨人たち・巨木100選(巨樹・巨木を考える会・講談社)にも選ばれている。

修善寺駅から昭和の森会館行きまたは河津駅行きのバスで38分、昭和の森会館で下車。時間がない時は滑沢渓谷までバス(河津駅行きのバスで39分)で行ってもよい。

昭和の森会館は道の駅・天城越えとなっていて、会館のほかに伊豆半島ジオパーク 天城ビジターセンター、レストラン、天城わさびの里(直売所)、竹の子かあさんの店、井上靖旧邸・グリーンガーデン(シヤクナゲの森 など)がある。会館の中には森の情報館(無料)と伊豆近代文学博物館(有料)があるので歩く前に見学していききたい。道の駅の前にあるグリーンガーデン(入園無料)には、3月にはエドヒガンザクラの大きき薄ピンク色の花をつける。また、5月には500種・1万3000本のシヤクナゲが沢山と咲く。このほか季節の草花が沢山

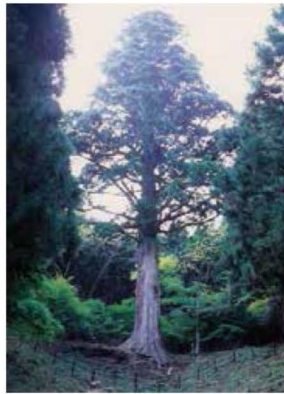
植栽されているので、花好きには見逃せない所である。園内の遊歩道の展望所からは富士山も望める。カエテが植栽された会館の庭先を突っ切る。秋の紅葉のシーズンには紅葉狩りの観光客で賑わう所だ。

中ほどに御礼杉の説明板がある。目の前のグリーンガーデン内にある御礼杉のことで、次のように書かれている。『天城山を徳川幕府が所有していた頃、「天城七木制」と言われる禁伐制度がありました。山付きの部落に雑木や下草を利用させた際、その開けた跡地に杉を植えるという森林保護を目的とした政策造林を行っていました。しかし、幕府の強制的な造林だったこともあり、不満を抱える村民の心情を和らげようと幕府は、森林に対する感謝の意を示す御礼の杉である(御礼杉)と伝えたと当時の村名主が記録を残しています。』

天城山にはこうした御礼杉がおおよそ150本あり、県道の向側にある数本の杉大木もその一部です。古いものは樹齢200年以上を数えるのもあります。山神社を右に見て、樹林帯を行くと天城旧街道の説明板。小さな沢を渡って石段を上がると



▲御礼杉



▲太郎杉



▲滑沢渓谷



▲竜姿の滝

一枚岩の美しい渓谷を巡り 天城一のスギの巨木・太郎杉へ

カエテが沢山植栽されている広場に出る。その端にある踊子歩道の案内図を見、右下に本谷川を横間越しに見ながら行くと滑沢渓谷の説明板がある。橋を渡ると正面に井上靖の「狹銃」の文学碑。

道は左右に分かれているので右へ行く。左の道は行き止まりだが、少し入った所は紅葉の名所なので、季節にはちょっと寄り道してもいい。わさび田のすぐ先に滑沢川にかかる滑沢橋。上流を見ると一枚岩の上を滑るように流れる沢が見て取れる。下流を見ると流れによってできたポットホールがいくつか見られる。ポットホールとは岩の窪みに右が流れ込むと、水流で窪みの中で石が回転し、お互いに削れて、窪みが深くなり、石は丸くなる。これでききた穴を言う。ポットホール内に



▲滑沢渓谷の紅葉

あった玉石は激しい水流によって飛び出してしまっていないが、伊東市城ヶ崎のかんのん浜には巨大なポットホールがあり、直径70cmの玉石が残っている。

滑沢川の下流で右手から流れ込む本谷川と合流した所に竜姿の滝がある。竜姿の滝へは林道から歩道があるので行ってみよう。透き通った水に手を入れると切れるように冷たい。上流にわさび田があり、人の手やシカ、イノシシなどの動物が入っている。水は飲まない方がよい。歩道は滑沢川の両岸につけられているので、どちらを行っても途中で合わる。一旦林道に出て、しばらく行って再び川沿いの道を行き、また林道に出たら、そのまま林道を歩く。大洞沢橋を渡ってなお進むと太郎杉の上り口に着く。説明板の横にかつて鼻集した俳句が刻まれた石碑がある。

右奥を見上げると太郎杉の巨大なスギが目にとびこんでくる。下から見ると大きく見えませんが、そばに近寄ってみると、その大きさに圧倒される。保護のため樹の根元まで行かないように柵があるので入らないように。帰りは元来た林道を通って滑沢渓谷のバス停、または昭和の森会館へ戻る。

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	38分	昭和の森会館
修善寺駅	バス	39分	滑沢渓谷
滑沢橋	30分	太郎杉	
滑沢橋	15分	御礼杉	

●所要時間：約1時間15分

